



地域包括ケアネットワークを構築しながら介護事業を発展するためには人材確保と育成・活用は急務であり「魅力ある介護事業所」として地域へアピールするためにもキャリアパスの見える化は重要な課題であると考えている。

今回キャリアパスの充実を図る上で重要な資格である「認定介護福祉士」についてまとめた。社会的にまだ認知されていない資格ではあるが、介護分野のキャリアパス構築で魅力ある専門職種として活躍する介護福祉士の未来像を描く上で欠くことの出来ない資格であることは間違いない。

## 認定介護福祉士とは

認定介護福祉士とは、介護福祉士の上位資格として『一般社団法人 認定介護福祉士認証・認定機構』が2015年12月から認証・認定を開始した民間資格で、介護福祉士資格を取得して実務5年以上の経験があれば受講し資格を取得できる。介護福祉士よりも、更に多様な利用者や環境に対応できるための知識やスキルの習得、介護職員へサービスの質向上を指導するスキルと実践力を磨き提供できる介護福祉士のエキスパートである。

## 認定介護福祉士のねらい

1. 生活を支える専門職としての介護福祉士の資質を高め、利用者のQOLの向上、介護と医療の連携強化と適切な役割分担の促進、地域包括ケアの推進など、介護サービスの高度化に対する社会的な要請に応える。

## 【認定介護福祉士が配置されることにより期待される社会的な成果】

- ・ 生活機能の維持・改善により、要支援・要介護度が改善される。
- ・ 障害に応じた生活環境が整備され、地域での自立生活、社会参加ができる。
- ・ 重度の認知症となっても地域生活を継続することができる。
- ・ 医療依存度が高くても、早期に退院し、施設や在宅で生活できる。
- ・ 口腔機能の維持向上、排泄の自立、BPSDの減少などがはかられる。
- ・ 地域生活を継続しながらその人らしい終末期を迎えることができる。





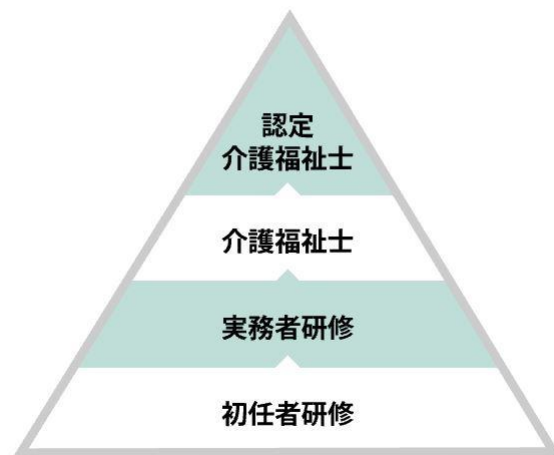
2. 介護福祉士に対する、他職種、事業者、利用者・家族等からの社会的な評価 を高める。
3. 介護福祉士の資格取得後のキャリアパスを整備する。

### キャリアパスと認定介護福祉士

厚生労働省が公表した今年10月から始まる「特定処遇改善加算」のねらいも介護福祉士リーダー級にアプローチしていることから、介護福祉士リーダー級を更にスキルアップさせ処遇改善を図るのであれば、「認定介護福祉士」へのキャリアアップを視野に入れ育成すべきであると考えられる。なぜなら介護福祉士の能力向上を公正に評価し処遇を改善するのであれば、この資格制度を活用しエキスパート介護福祉士のキャリアが新たに示されれば、社会的に注目を集め成果が得られると思われるからである。

以上のことから事業所の規模にもよるが、複数の事業所を展開する事業所であれば介護職のキャリアパス最上位である「認定介護福祉士」を意識した階層を想定して 4～5段階とすることが望ましい。

将来的に魅力ある事業所として地域へアピールするためには、キャリアパスを充実させて「認定介護福祉士」の育成に取り組むことになる。近い将来、介護報酬における加算のアウトプット要件も「キャリアパスの見える化」と「認定介護福祉士の配置」は意識すべきであると考えている。



### 認定介護福祉士の研修について

民間資格であるが、研修は「認定介護福祉士認証・認定機構」が認証した機関で受講することになる。認定介護福祉士養成研修には「認定介護福祉士養成研修Ⅰ類」と「認定介護福祉士養成研修Ⅱ類」があり、Ⅰ類研修カリキュラム時間は345時間、Ⅱ類は255時間でⅠ類研修修了後受講し全行程600時間となる。

沖縄県の場合は、「沖縄県介護福祉士会」ホームページで研修要綱や研修テキストなどが確認できる。

※沖縄県介護福祉士会 URL <https://okikai.com/nintei>